

カーボンナノチューブで放熱材

名古屋大などの研究チームは21日、カーボンナノチューブを使った放熱材料を世界で初めて開発したと発表した。従来の合金などの放熱材に比べて15倍の熱伝導率があり、家電製品の軽量、薄型化につながる」と期待されている。

名古屋大など研究チーム

開発したのは、同大エコトピア科学研究所の楠美智子教授と財団法人ファインセラミックスセンター（名古屋市熱田区）のチーム。楠教授らはセラミックスからシリコンだけを抜くなどの方法で、熱伝導率を高めた高密度カーボンナ

家電の軽量・薄型化に期待

ノチューブを作ること成功した。半導体など電子部品は、製品の高機能化で年々、発熱量が増えているが、このカーボンナノチューブを放熱材に使えばより効率的に熱を拡散することが可能になるという。カーボンナノチューブは髪の毛の約1万分の1の細さで筒状に炭素がつながった物質で、加工が難しく、有効な応用報告例はなかった。